

2版における改訂内容

改訂箇所	初版	2版
口絵キャプション	(c) 干潟の表層で堆積物食を行う ミナミコメツキガニ (1, 9章)。	(c) 干潟の表層で堆積物食を行う ミナミコメツキガニ (撮影: 遠藤 雅大氏) (1, 9章)。
口絵, 写真 (e)	差し替え	
p.viii, 下から 10 行 目	—挿入—	また, 生態学を初めて学ぶ方のた めに, 各章の重要事項をまとめたク イズを準備しました。http://www. kaibundo.jp/benthos/quiz.pdf から ダウンロードできますので, 復習 にご活用ください。
p.11, 1 行目	捨てる (図 1.8)。	捨てる (図 1.8 a)。
p.11, 2 行目	サナダユムシなどのユムシ類	サナダユムシ (図 1.8 b) やタテジ マユムシなどのユムシ類
p.12, 3 行目	することもある。	することもある (口絵 d)。
p.54, 下から 5 行目	$W_H = p \times \frac{V-C}{2} + (1-p)V$	$W_H = p \times \frac{V-C}{2} + (1-p) \times V$
p.55, 16, 19, 23 行 目および図中	$\frac{C}{V}$	$\frac{V}{C}$
p.55, 下から 5 行目	考えられる。	考えられている。
p.70, 3 行目	受精させる	授精させる
p.70, 下から 3-2 行 目	引き起こす。	引き起こす (1.1 節)。
p.72, 下から 12 行目	過ごす。	過ごす (1.4 節)。
p.73, 図 4.6	差し替え	
p.74, 9 行目	<i>Elysia</i> 属	ゴクラクミドリガイ属
p.74, 14 行目	<i>Elysia</i> 属ウミウシ	ゴクラクミドリガイ属
p.75, 図 4.7	差し替え	

p.79, 5-14 行目	最も有力な説明は、オス機能とメス機能の性配分に注目したゲーム理論である (Charnov 1982 の第 14 章)。ここでは、性機能に対して資源の投資を増やしていくと、はじめのうちは雌雄どちらでも適応度は増加していくが、やがてオス機能で得られる適応度が頭打ちになるような状況では、雌雄異体であるよりも両性の機能を同時に持っていたほうが有利、すなわち進化的に安定な戦略 (3.4 節) になると説明される。たとえば、繁殖集団が小さくて、オスとして受精させられる卵数に限りがある場合、いくら大量に精子を生産したところで見込める適応度には限界がある。ならば必要なだけの精子生産を行って、余った資源を卵生産に回したほうが無駄はない。	最も有力な説明は、オス機能とメス機能のトレードオフ関係に注目したゲーム理論である (Charnov 1982 の第 14 章)。この理論では、性機能に対して資源の投資を増やしていくと、はじめのうちは雌雄どちらでも適応度は増加していくが、やがて一方の性の機能を通して得られる適応度が頭打ちになる状況などを想定している。たとえば、繁殖集団が小さくて、オスとして授精させられる卵数に限りがある場合、いくら大量に精子を生産したところで見込める適応度には限界がある。ならば必要なだけの精子生産を行って、余った資源を卵生産に回したほうが無駄はないだろう。つまり、このような状況なら雌雄異体であるよりも両性の機能を同時に持っていたほうが有利になる。
p.81, 16-17 行目	カメノテなど有柄フジツボ類	カメノテなどが含まれる有柄フジツボ類
p.88, 下から 10-9 行目	<i>Idotea baltica</i> と <i>Idotea emarginata</i>	2 種のヘラムシ類, <i>Idotea baltica</i> と <i>I. emarginata</i>
p.90, 下から 11 行目	肉食性巻貝類	肉食性巻貝
p.91, 14 行目	モズミヨコエビ類	ヒゲナガヨコエビ科の一種 <i>Pseudopleonexes lessoniae</i>
p.91, 下から 11-10 行目	モズミヨコエビ類の	ヒゲナガヨコエビ科の一種
p.91, 下から 8 行目	マルトサガザミ	マルトサカガザミ
p.92, 図 5.3 (b)	差し替え	

p.97, 図 5.7 キャプション	(a) サンゴガニ類はサンゴの枝にすむことで捕食者を回避している(写真:寺本さやか氏)。(b) サンゴガニ類が共生しているサンゴ(青丸)は, 共生していないサンゴ(赤丸)に比べて, 堆積物による窒息個体が減少する(Stewart et al. 2013より)。	(a) サンゴガニ類はサンゴの枝にすむことで捕食者を回避している(写真:寺本沙也加氏)。(b) サンゴガニ類が共生しているサンゴ(青丸)は, 共生していないサンゴ(赤丸)に比べて, 堆積物によって窒息する個体数が減少する(Stewart et al. 2013より)。
p.122, 9行目	単脚類	端脚類
p.125, 図 7.3 キャプション	(イラスト:長屋憲展氏)	(イラスト:長屋憲慶氏)
p.126, 図 7.4 キャプション	(イラスト:長屋憲展氏)	(イラスト:長屋憲慶氏)
p.150, 14行目	この値を 2.7 倍すると補償深度とほぼ等しくなる。	この値を 2~3 倍すると補償深度とほぼ等しくなることが経験的に知られている(西条 1964)。広島湾北部で調べた事例では, 補償深度 \approx 透明度 (m) \times 2.6 という数値が得られている(向井ら 1984)。
p.150, 図 8.4 中	※経験的に 補償深度 \approx 透明度(セッキ深度) \times 2.7	※経験的に 補償深度 \approx 透明度(セッキ深度) \times 2~3
p.187, 図 9.8 キャプション	(d) 微小巻貝類	(d) ウズマキゴカイと微小巻貝類
同上	(j) ヒラメ	(j) マコガレイ
p.187, 1-3行目	このような底質が堆積する場所は波当たりの弱い場所が多く, 内湾の河口域やサンゴ礁の礁池によく見られる。また, セルロースやリグニンなど高分子で難分解性の多糖類を多く含んでいる。	砂泥底は波当たりの弱い場所に多く, 海草藻場は内湾の河口域やサンゴ礁の礁池によく見られる。また, 草体はセルロースやリグニンなど高分子で難分解性の多糖類を多く含んでいる。
p.192, 図 10.1, 左下枠内の説明	他の生物系サービス	他の生態系サービス
p.233, 下から 16 行目	—挿入—	向井徹雄ら(1984)沿岸海域における海水の光学的性質およびそれらの季節変動. 水質汚濁研究 7:11-19
p.234, 2行目	—挿入—	西条八束(1964)海洋の基礎生産. 化学教育 12:455-461

p.247, 下から 7 行目	寺本さやか	寺本沙也加
p.247, 下から 6 行目	長屋憲展	長屋憲慶